

あわや感電事故！ 会社は安全認識を改めよ！

9月8日、マスコミは「JR東海の車掌が架線のビニールを素手で撤去した」と報道しました。一步間違えれば感電死亡事故の危険性がある事象です。

原因は「(写真を)撮って」を「取って」と聞き間違えたためとしています。これを契機に、会社は「撮影する」という言葉を使うとされていますが、今まで配慮がなされなかった背後要因をもっと解明すべきです。現場は机上で考えているように物事がスムーズに動くとは限りません。常に乖離があるのを前提としなければ、安全は確保できません。

架線に高圧電流が流れていることは乗務員ならば知っているはずですが、しかし、ビニールを素手で撤去したのが現実です。この間の会社の安全教育はどうだったのでしょうか？架線には高圧電流が流れていると認識していても「(聞き間違いでも)取って」と言われたら、上の命令には絶対だと思って従うのでしょうか？もしそうだとしたら、「命令と服従」の社風がはびこっている証左です。

ところで、この事象は7月22日に発生し、「感電事故の防止」というタイトルで

職場に掲示されました。なぜ1ヶ月半後になって新聞に出るのでしょうか？IC乗車券の不正使用の時は、素早くマスコミに公表されました。この件は隠し通そうとしたのでしょうか？何か経営側の意図があるようにしか、思えてなりません。

愛知県安城市のJR東海岡崎駅間で、普通電車の海道線で7月、1500 運転士が架線に絡まって、高電圧架線に絡まっているビニールを発見し、たビニールを、「(写真 急停車。総合指令所は携帯に)撮って」と指示を受 帯電話で現場の写真を撮って送信するよう、20代の女性車掌が「取って」と 愛知のJR に」という意味で勘違いし、架線から垂れ下がっていたビニールを素手で取り除いていたことが7日、分かった。車掌にけがはなかった。通常は絶縁用の手袋などをした作業員が除去する。JR東海は「感電の可能性はなかったが、関係部署との確認とになっている。JR東海は「指令所内では指示をきちんとすべきだった」としている。海は「指令所内では指示の際に『撮る』という時」としている。JR東海によると、7月22日午後0時15分ごろ、東海道線の安城―西